多様性が尊重される社会づくり推進セミナー

開催レポート vol.2

第2回セミナー 令和5年10月19日（木） 受講者123名（会場参加42名、オンライン参加81名）

テーマ／
「誰もが自分らしく」LGBTQと人権～誰一人取り残さない・多様な性が尊重される山形へ～

多様性を認め合い、誰もが生きづらさを抱えることなく個性や能力を十分に発揮できる社会づくりに向けたセミナーを開催しました。

一般社団法人日本LGBT協会　代表理事　**講師／清水 展人 氏**

1985年、兵庫県に長女として誕生。現在は2児の父親。18歳の時に性同一性障害と診断を受け、21歳の時に戸籍上の性別・氏名の変更を行う。精神科勤務等を経て、医療専門学校にて臨床心理学・生命倫理等を教える。トランスジェンダーとして生きる実経験と、教育や医療の専門家として行政・企業・学校教育現場で講師として全国的に活躍。LGBT法案、紅白歌合戦、秘書官差別発言等、国内のニュースと共にコメントを求められる存在。著書に「子どもも大人もわかっておきたいいちばんやさしいLGBTQ」（KADOKAWA/2023）「今とこれからがわかるはじめてのLGBT入門」（主婦の友社/2022、紀伊國屋書店（新宿・名古屋・大阪）にて教養・社会ジャンル等でベストセラー入り）他多数。

性の4つの要素

性の多様性について理解する指標として、SOGIESC（ソジエスク：Sexual Orientation/Gender Identity/Gender Expression/Sex Characteristics）という4つの要素があるといわれています。

性的指向 (Sexual Orientation)	恋愛感情や性的な関心・興味が主にどの性別に向いているか/恋愛感情や性的な関心・興味の有無や強さ
性自認 (Gender Identity)	自分がどのような性別であるか又はないかについての認識
性表現 (Gender Expression)	服装・髪型・しぐさ・喋り方などの外部的な表現
性的特徴 (Sex Characteristics)	染色体・ホルモン値・筋肉量・体毛など、生物学的な性別を示す身体的特徴・行動特性

LGBTQ（性的マイノリティ）とは？

L（レズビアン）：女性の同性愛者

G（ゲイ）：男性の同性愛者

B（バイセクシャル）：両性愛者（男性も女性も恋愛対象となる者）

T（トランスジェンダー）：出生時に割り当てられた性別に違和感を持ち、それにとらわれない生き方をする人

Q（クエスチョニング）：ジェンダーや性自認・性的指向に迷い揺れ動く人
（クィア）：性的マノリティの総称

これらが代表的ですが、他にも様々な性の在り方があり、カテゴライズよりもその人らしさを尊重することが大切です。
各種調査によると（※）約12.5 人に1人が性的マイノリティに該当するとされ、これはAB 型や左利きの人と同じ割合と言われています。
※電通ダイバーシティ・ラボ（2018）、株式会社LGBT総合研究所（博報堂ホールディングス、2016）

当事者が安心して話せる環境づくりはできていますか？

相手が性的マイノリティの当事者かどうかは、見た目だけではわかりません。また当事者の方々は、自身が抱える悩みについて周囲にカミングアウトできない、いじめや暴力を受けるかもしれないという不安、そうした不安から自殺念慮を持つ等、困難や生きづらさを抱えることが多い現状があります。

だからこそ…当事者の側にいるという感覚や意識を持ち、安心できる取組みやルールづくりが大切

- **まずは性の多様性について知る**
- **自分にとっての「普通」と「当たり前」を押しつけない**
- **理解しようとしている姿勢を示す**

第2回セミナー 令和5年10月19日（木）開催

REAL VOICE

参加者の声

※講演後のアンケート結果より

～性の多様性についてどのような“気づき”がありましたか？～

性、考え、生き方、全て多種多様。何事においても決めつけることはできないと思います。正直、あと一世代位入れ代わらないとそれがあたりまえにはならないでしょう。あきらめず発信し続けていくしかないですよね。

「認めあうこと」の難しさを感じました。小さい頃から認め合うことが必要と思いました。

普段自分が気づかないだけで、性に違和感を感じている人が、AB型や左利きの人と同じくらいの割合で周りにいるということに驚いた。

13人に1人という数字は意外でした。知らないうちに傷つけてきた友達がたくさんいたのかもしれないと思い、性についてつくづく画一的な知識しか持っていなかったと思います。性の多様性についてもっと早く知るべきだったと思いました。

多様性が尊重される社会づくりのため、声を出しにくい人が安心して話せる環境をつくるためには、まず性的マイノリティの方の存在を認識し、肯定的なメッセージを発信していくことが必要なのだと教えて頂きました。

想像以上にLGBTQの方の割合が多いということがまず衝撃でした。自分の周りでは聞かないな、と思っているだけで実はいるかもしれない、我が子もそうかもしれない、という気持ちを忘れずに、意識していきたいと思いました。お辛い経験がありながらも自分らしく生きられ、幸せな家庭を築かれ、そして世の中に広めようと活動なさっていること大変素晴らしいと思いました。

「性的少数者」というが、12.5人に1人いることに驚いた。自分が気づいていないだけで身近にいるのだろうと考えるきっかけになった。

当事者にしかわからない悩みや葛藤が沢山あるということ。

性の在り方の４要素について理解が深まりました。リアルな話を聞かせていただいて、だれもが大切にされる社会についてイメージが持てました。

当事者のお話をきくこと、耳を傾けることの大切さ。理解しようとする姿勢の大切さ。それを他の人に伝えていくことの大切さ。

思っていたより性的少数者の方々が多いということに驚きました。子供の時「男女」「女男」などと平気で言い合っていたことを思い出しました。あの時、もしかして傷ついていた子がいたのかもしれない。子どもの時から他者を尊重する教育が大切だと感じました。

自分の身近にもLGBTQの方がいるのかもしれないと思いました。日頃から人と関わる際には、発言や質問などに気をつけているつもりですが、気付かぬうちに傷つけてしまうことがあるのかもと思いました。

性的マイノリティの方が小さい子どもの頃から人には言えない悩みを抱えている現実があること。

性の多様性について打ち明けられた場合、自分は差別せずに受け入れることができるのか、改めて考えさせられた。

先生が「グラデーション」とおっしゃっているとおり、性のあり方は本当に多様で、性的マイノリティの方はいろんな場面でつらい思いや苦しい思いをされていることを痛感した。情報として知ってはいたが、実際に当事者としての先生の話を聞いて、理解が甘かったなと感じた。

～性の多様性を認め合う社会づくりのために、大切だと感じたことは何ですか？～

「自分の近くにも、当事者の方が当たり前にいるのだ」ということをいつも心においておくこと。

カテゴライズよりもその人らしさを尊重すること、多様な幸せの在り方を認め合うことが大切であると感じました。

納得、共感できないまでも理解することに少しの努力を向けること、自分には関係ないと思わないこと。

今回のようなセミナーや研修で学ぶことが必要。小学生など小さなころからの教育はもちろん必要だが、大人こそ知らなければならないと感じた。

正しい知識をもつこと、その努力をすること。文献や資料からだけでなく当事者からのお話を聞くと実感がもて理解につながると思う。

存在を理解することが大切であると実感した。知らないことに対峙した時に、思わず抵抗感を持ってしまうことが人間には多いと思うが、知識を増やしておくことでそのような事態を防ぐことができると感じた。

今までいろいろな講座を受けて知っていたと思っていた気がしましたが、当事者の方のお話は今までの考えや思いを変えるものでした。子ども達のため、苦しむ子をなくするため、理解者になりたい。

どうしても根強い、男らしく、女らしく、といった潜在意識をひとりひとりがなくす努力をすることが必要だと思いました。社会のルールも少しずつ変わりつつありますが、まだまだだと痛感しました。少しでも辛い思いをする方が減るような社会になるといいなと思いました。

山形県しあわせ子育て応援部 多様性・女性若者活躍課